

一般俸給生活者に檄す

我々は「社員」「知識階級」の名の下に、永い間、資本主のために欺かれ、また我々も自らを欺いて来た。併し、今や我々は斯くの如き形式的誇りを剥ぎ棄て、本統に我々自身の實生活を直視する時が来た。我々の本體は何んであるか。我々は矢張り資本家の營利的機械に過ぎない。資本家から子供だましの形式的待遇を與へられ、懐柔されて、我々は巧妙に搾取されて居るのだ。見よ、我々が見掛け倒しの體面を保ちながら、慘ましい生活不安に襲はれつゝある現状を。我々が一切の欺瞞と虚偽と體面とを棄て、頭腦労働者としての生存権を主張すべき時が来たのである。

日本電氣株式會社の日給社員の月收額は、最高七拾一圓最低三拾五圓であつて、平均約五拾二圓であるが、最高に近いものは極めて稀で、一般は五拾圓以下である。之れでどうして生き甲斐ある人間の生活が營まれるか。しかも此の俸給額と雖も、本給は甚しく低くして、臨時手當の名の下に、九割増と米價補給金とを以て補つて居るのである。かの本給を基とする年一回の昇給額金何錢と年二回の賞與の如きは、全く取るに足らない輕微なものである。我が菟星會は、俸給生活者の社會的地位に目ざめたる者の組合であつて、常に、我等の地位の向上を念とするものであるが、今回、我等の生活改善の第一歩として、臨時手當及び米價補給金を本給に引き直し、且つ本給を三割増にする等の要求を會社に提出した。然るに、會社は不誠意にも我等の要求を拒絶した。茲に於て、我等は、已むを得ず、奮起して、會社と戦はざるを得ざるに至つた。我等は幸にも、日を労働總同盟關東鑛工組合三田支部の諸君と完全なる協同戦線を張る事を得た。我等は今、炎熱と戦ひつゝ、横暴なる資本家と對陣し健闘しつゝある。

親愛なる一般俸給者諸君!! 我等は、諸君が我等の主張と行動に理解と同情を與へられ、我等の奮闘を援助せられ、尙ほ進んでは團結組織を以て、廣く、無産階級戦線に來り投ぜられんことを切望する。

大正十三年八月一日

日本電氣株式會社
日給社員組合菟星會